（KU1－1）

二〇二六年度

入学試験問題

国語

最初に、以下の注意事項をよく読んでください。

一、問題冊子は監督者の指示があるまで開いてはいけません。

二、監督者の指示により、最初に問題冊子の表紙と解答用紙の、指定された欄に**受験番号**と**氏名**を記入してください。

三、試験問題の内容に関する質問には応じません。それ以外の用事があるときは手をあげてください。

四、受験中気分が悪くなったときは、監督者に申し出てください。

五、字数に制限のある問題では「、」や「。」などの記号も一字と数えます。

六、解答用紙は持ち帰らないでください。

受	験	番	号
1			

氏名

〔一〕次の――部のカタカナを、漢字に改めなさい。

① スギをショクジュする。
② 水陸リョウヨウの乗り物。
③ 将来のためにチョキンをする。
④ コウフクを感じる。
⑤ 入り口をカイホウする。
⑥ ジンミャクを豊かにする。
⑦ 万国ハクラン会へ出かける。
⑧ 命のトウトさを感じる。

〔二〕次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

著作物利用のため本文は非公開とします

著作物利用のため本文は非公開とします

KU1-1

著作物利用のため本文は非公開とします

KU1-1

■一　〰部（X）（Y）の語の意味として最もふさわしいものを次のア～ウの中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

（X）「裏腹に」
ア　思いもよらず
イ　想定と異なり
ウ　隣り合わせに

（Y）「ことのほか」
ア　僅かに
イ　限定的に
ウ　非常に

問二　――部1「友人のあり方が変わった」について、次の二つの問いに答えなさい。

(1)「変わった」後の友人のあり方を端的に説明したものを、本文中から十八字で抜き出して、そのはじめの五字を答えなさい。

(2)その結果、私たちが直面している状況を説明したものとして最もふさわしいものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア　社会の個人化が進み、血縁や地縁などそれまで存在していた人間関係に組み込まれにくくなった。
イ　科学技術が大きく進歩し、空間的に離れた友人と気軽に連絡することができるようになった。
ウ　変化し続ける現代社会のなかで、特定の仲間と永続的に付き合っていくことが不可能になった。
エ　多様性を重視する風潮によって、これまで当たり前と思われてきた価値観も見直されはじめた。

問三　――部2「自由をもてあまし、巨大なシステムに身を寄せる」とありますが、これを説明したものとして最もふさわしいものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア　集団に帰属することから解放され、自分らしく生きる自由を得たが、あまりにも自分自身で決めねばならないことが多いため、その責任を放棄したいと考えている。
イ　誰かとつながらない「個」で生きる自由を得たものの、たったひとりでいる孤独感や不安に襲われた結果、いつでもどこでも誰かとつながることができることを選択し、束の間の安息を得ている。
ウ　情報通信端末の使用は、遠方の友人とも自由なコミュニケーションを可能にしたが、デジタルな友人関係の維持は難しく、当たり障りのないコメントを送信する程度になっている。
エ　社会の個人化が心身両面の自由をもたらしたものの、すべてが自己責任の「自由」が行き過ぎた結果、いつでも連絡できる居心地のよい環境や仲間に依存している。

問四　――部3「感覚に依拠するゆえ、本質的に曖昧さを抱える」とありますが、このように筆者が述べる理由を説明したものとして最もふさわしいものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア　相手と自分が友だちであるという感覚は物理的な形を持たないため、互いに確認をし続けなければすぐに見失ってしまうものだから。

イ　社会の個人化によって、新たに友だち関係を構築できそうだと感じる相手と出会う機会が減少してしまい、既存の友だち関係に終始してしまう傾向があるから。

ウ　相手を友だちとみなすかどうかの基準は人それぞれであるため、自分だけが相手を友だちと思っているという一方通行的な関係性が生じる場合があるから。

エ　友だちであるかどうかはコミュニケーションの具体的な記録に基づくものではなく、友だちであろうとする意志と努力によって維持されるものといえるから。

問五　――部4「距離の離れた相手とのコミュニケーションの行き違いはかなり減少した」とありますが、これを説明したものとして**ふさわしくない**ものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　通話やメッセージの履歴が保存され、コミュニケーションの有無や内容の客観的な証拠となった。

イ　場所の詳細の共有や、予定の変更をリアルタイムですることで、無駄な待ち時間を削減できる。

ウ　直接の面識がなくてもメッセージを送信することが可能で、新たな友だち関係を作りやすくなった。

エ　不在着信の記録が何度も残されていれば、急ぎの重要な伝達事項があることが推察できる。

問六　――部5「コミュニケーションの記録は、連絡の交通整理だけでなく、承認の目安としても機能した」とありますが、この説明として最もふさわしいものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア　着信履歴に残る番号が誰のものかを知っていれば、いつ誰から連絡が来ていたかが明確になり、発信や着信の履歴を確認することで、情報の伝達漏れが起きる可能性がなくなったということ。

イ　個人の電話番号をアドレス帳に登録しておくことで、見覚えのない電話番号からの着信があった時、警戒して電話にあえて出ないという選択をすることができるようになったということ。

ウ　自分だけにつながる電話番号を互いに交換し合い、連絡を取りたい相手を自由に選ぶことが可能になると、着信や通話が記録されている人物だけを友人とみなすようになったということ。

エ　番号とその保有者とが結びつくことで、相手からの連絡の有無がわかるようになり、連絡の頻度や応答の早さなどからは、自身と相手との関係性なども推し量ることができるようになったということ。

問七　――部6「メールやＬＩＮＥなどのコミュニケーション・ツールが人びとの孤独への恐怖をあおる」とありますが、その理由を説明したものとして最もふさわしいものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア　自身や友人の居場所を選ばないオンラインのつながりは、新たな友人関係を形成することを期待させる一方で、それと引き換えに身近な友人とのつながりは失われてしまうものだから。

イ　他者とのデジタルなつながりが確認できるたびに人びとはつながりへの期待を膨らませるが、同時に、一瞬でもつながれない事態を想像するだけで大きな不安に陥ってしまうから。

ウ　意中の相手から送信されるメッセージにはできるだけすぐに応答しようと待ち構えていても、実際に相手から連絡が来る機会は少なく、自分と相手の思いの不均衡を思い知ることになるから。

エ　新たに登場したコミュニケーション・ツールによって、遠方の友人とも気軽に連絡を取り合うことができるようになったが、そこで育まれた友人関係は表面的で空虚なものとやがて気付くから。

問八　――部7「「つながらないこと」に対する耐久力を大幅に落としてしまう」とありますが、「耐久力」の低下した状況の例と考えられるものを次のア～カの中から二つ選び、記号で答えなさい。

ア　投函した手紙に対する返信がいつ来るかと日々やきもきしないこと。

イ　携帯電話やスマートフォンの予備電源をつねに持ち歩くこと。

ウ　ＳＮＳで話題になるように、素敵なカフェの料理を見栄えよく撮影しようと苦心すること。

エ　料理を作るときに、そのレシピや注意点をＡＩに尋ねながら作りはじめること。

オ　旅行にいく際に、インターネットを駆使して観光スポットの事前情報を調べようとすること。

カ　ＳＮＳ上にあふれる投稿について、更新があるかどうか、ことあるごとに確認すること。

〔三〕次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

母親と二人で暮らしている小学五年生の時田真潮（ぼく）は、クラスで飼っている金魚の飼育係をしている。一学期のある日、金魚をいじめていた同級生を怒りのあまりに近くにあったリコーダーで殴ってしまい、※1それ以降、クラスで浮いた存在となってしまった。その夏休み、母の仕事の関係で、急遽、萩焼職人の祖父の家に預けられることになったが、真潮は腑に落ちていない。ある日、知り合いから自転車をもらったので、仲良くなった同学年の少女の希沙の家まで行ったが留守にしており、やむなく家に戻ることにした。

著作物利用のため本文は非公開とします

著作物利用のため本文は非公開とします

KU1-1

著作物利用のため本文は非公開とします

KU1-1

著作物利用のため本文は非公開とします

KU1-1

著作物利用のため本文は非公開とします

KU1-1

※1　萩焼…山口県萩市を中心に作られる陶器。

※2　ワーテンくん…怒るとワーっと急転して暴れるという理由で一方的に付けられた呼び方。

問一　――部1「はずかしさなんて感じるすきもないくらい、ぼくの気持ちはしぼんでいった」とありますが、このときの真潮の様子として最もふさわしいものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア　母に似た人に無意識に声をかけていたことから、心の底から母の存在を求めていることに気が付いて、嫌気がさした。

イ　母によく似た人に冷たい態度をとられたことが、まるで母に冷たくされたかのように感じてしまい、悲しくなった。

ウ　母に会えたというれしさや安堵の気持ちが、人違いだったことでまたたく間に消え去り、悲しみや虚無感に包まれた。

エ　少し離れて暮らしただけで、赤の他人と見間違えるほどに母の面影が自分の中であいまいになっていたことに気が付いて、心細くなった。

問二　――部2「楽しそうな笑い声は、ぼくとは別世界の人のものみたいだ」とありますが、この時の真潮の様子の説明として最もふさわしいものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア　悲嘆に暮れている真潮は、おだやかな日常の一コマである光景を受け止めることができずにいる。

イ　慣れない土地に孤独を感じている真潮は、自分も一緒に笑える仲間を作りたいと思って眺めている。

ウ　なじみのない駅に緊張している真潮は、楽しそうな光景であふれた空間から逃げだそうとしている。

エ　感情表現が苦手な真潮は、感情を素直に表に出している人たちを不思議そうに観察している。

問三　――部3「それを粉々に割ってしまえば、ずっとぼくの心の中で小さくなったり大きくなったりしている炎のようなものが消える気がした」とありますが、どういうことですか。その説明として最もふさわしいものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア　慣れない環境で暮らすことになったことへの不満や不安が、母に似ている花入れを割ることによって大阪にいる母に届き、会いに来てくれると思ったということ。

イ　どうしても母のことが気になって、今いる環境になじめないでいるが、母に似ている花入れを割ることで母から解放され、祖父たちにももっと心を開けるようになると思ったということ。

ウ　母の存在に頼りすぎている自分に腹立たしく思い、母に似ている花入れを割ることによって母の存在を忘れ、自分の力でたくましく生きていけると思ったということ。

エ　母に対する怒りややるせなさをうまく整理できないでいるが、母に似ている花入れを割ることで、母だけでなく他の人に対する感情も落ち着かせることができると思ったということ。

問四　――部４「ぼくは笑えなかった」とありますが、それはなぜですか。その説明として最もふさわしいものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア　希沙に会うことができずに徒労で終わった昨日の出来事について、まったく気にしていない希沙に対して、怒りの感情があまりにもあふれ出してしまい、平常心を保っていられなかったから。

イ　希沙の家まで行ったにもかかわらず、希沙に会うことができなかったことで、友達ならいつでも会えるという期待を裏切られて落胆し、その思いを隠すことができなかったから。

ウ　昨日会えなかった希沙がいま目の前に突然姿を現したことに不意を突かれて、うれしさと不満の両方の感情が押し寄せて、それをどのように感情を表現していいかわからなかったから。

エ　昨日会いに行ったにもかかわらず、会えなかった希沙にいま会うことができたものの、うれしいという思いを素直に顔に出してしまうことが気恥ずかしく感じられたから。

問五　――部５「だけど、そんなふうに思う自分もいやだった」とありますが、この時の真潮に関する説明として最もふさわしいものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア　昨日の出来事をまだ自分の中で処理し切れていないところに矢継ぎ早に話しかけてくる希沙をうっとうしく思っているが、状況を早く整理できないでいる自分のいたらなさにも腹立たしく思っている。

イ　話すことが苦手な自分に対して返答を求めてくる希沙にいらだちを隠せないでいるが、そもそも自分がきちんと会話をすることができれば問題にならないことに気付き、気落ちしている。

ウ　いつも無頓着に接してくる希沙に対して、少しは自分の感情に気付いてほしいと腹立たしく思う一方で、それをきちんと相手に表明できない自分自身に対しても不満を感じずにはいられないでいる。

エ　聞かれたことに答える前に次の質問をしてくる希沙のせっかちさにいらだちを覚えるが、聞かれたらすぐに答えることができない自分自身にもいらだちを隠せないでいる。

問六　――部６「ただ走っているだけなのに、ぼくも希沙もすごく笑った」とありますが、それはなぜですか。その説明として最もふさわしいものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア　今まで頭の中で色々なことを考えすぎていた真潮と希沙にとって、走るだけという単調な遊びがむしろ面白く感じられたから。

イ　立派な遊び場で過ごしているわけではないものの、昨日きちんと会えなかった分、いま二人でいる時間がいつも以上に大切なものに感じられたから。

ウ　希沙と一緒にいられるだけで楽しく感じてくれているようである真潮を見て、希沙も真潮を遊びに誘ったことに満足することができたから。

エ　互いの思いを素直に伝えたことでこれまで以上に打ち解けることができ、ささいなことでも楽しさを共有することができるようになったから。

問七　――部7「さっきまでとはまったくちがう気持ちで泣きたくなった」とありますが、それはなぜですか。その説明として最もふさわしいものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア　クラスメイトからの水族館の誘いを長期間放置してしまい、友人を失ったかもしれないと不安で一杯だったが、何も気にしていないことがわかって安心し、これまでの緊張が一気に解けたから。

イ　クラスメイトを殴ってしまったことでクラスで疎外されていることを思い出して悲しい気持ちでいたが、自分のことを友達だと思い、信じてくれる存在がいることがわかってうれしくなったから。

ウ　不本意な出来事によるクラスでの孤立を思い出して悲しくなっていたところ、自分の悩みなど大したことはないと友達に言われ、これ以上悩みに対する苦しみを吐き出すことはできないと思ったから。

エ　話すことが苦手な真潮にとって電話をかけることは泣きたくなるほど勇気のいることだったが、相手と電話口で気さくに話すことができ、この夏休みを経て、自分の成長を実感できたから。

問八　保健体育の授業の中で「適応機制（防衛機制）」という心の安定を保つための働きを学んだAさんは、「真潮」の行動についてどのような適応機制が働いているのかを考えてまとめてみた。次の適応機制の説明をふまえて、ア～エの真潮の心の働きについて正しいものは○、間違っているものは×でそれぞれ答えなさい。

ア
駅員にやさしく声をかけられた
⬅
自転車に飛び乗って家に向かう＝逃避

イ
帰宅が遅くなった真潮をおじいちゃんが待っていた
⬅
おじいちゃんの前を無言で通りすぎる＝反動形成

ウ
花入れを割ろうとした真潮に
おじいちゃんが優しく声をかけた
⬅
涙を流す＝退行

エ
希沙の家に勝手に行ったところ会えなかった
⬅
「いつ来てもいいよ」と言ったのにいなかった
希沙に腹を立てる＝合理化